

【学校教育目標】
ふるさとを愛し、自立の基礎を身につけた児童の育成 ～ 一歩上のわたしをめざして ～

【本年度の重点目標】
◎ 周りの人を大切にする言葉づかいができる児童の育成（合言葉「ふわふわ言葉名人」「あいさつ名人」） ◎ 自分からみんなのために頑張る児童の育成（合言葉「自分から名人」）

児童像	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
問題に気付き 解決策を考え 伝え合う子ども	思考力・判断力・技能 知識・表現力等	◎基礎学力の確かな定着【指標】全国学力・学習状況調査（6年）福岡県学力調査（5年）標準学力調査（全学年：12月実施） ＜結果＞ 全国学力・学習状況調査：国語76.6 算数78.5 福岡県学力調査：国語79.3 算数85.8 標準学力調査：国語47.4（前年度比+0.7） 算数50.4（前年度比+0.7） ・校内研究「主体的に学び、自らの考えを表現できる授業づくり」で、算数科を中心に、自己存在感の感受や共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供など生徒指導上の視点を生かした授業づくりを行った。 ・算数科では、単元テスト80%の通過率90%を目指して、習熟の時間を多く位置付けたり、習熟度別3分割授業を行った。 ・課題である「読む力」を高めるために、国語科において音読のスキルを高める授業展開を行ったり、火曜日の掃除時間を読書タイムとして読書の時間を確保したりした。 ・学びタイムにおいて、基礎的・基本的な力の定着のための読解問題と算数トレーニングに取り組み、解説や見取りを行った。	2.7	・先生方の日々の努力に頭が下がる思いです。しっかり頑張ってください。 ・読む力をつけるために、図書館をもっと利用してほしいです。 ・本を読んだあと、感想を交流したり、みんなの前で発表したりすると読む意識が高まると思います。 ・個々の学力向上については、家庭の問題もあり、難しいものでもあるが、少人数学級のため底上げすることは不可能ではないのかなと思う。 ・学力が少しずつ上がっていますので、このまま少しずつ上げていただければと思います。 ・全国や県の平均にはまだ届いていませんが、今日の授業のように落ち着いて笑顔で話し合いながら学習をしている様子を見て、少しずつ学力も向上すると思います。	・算数科の主題研究に3年間取り組み、一定の成果を上げることができた。次年度からは、嘉麻市指定の食育の研究に取り組むことになるが、一般研修等において生徒指導の実践上の視点を生かした授業づくりについて研修を深めていく。 ・どの学力調査においても、国語科に課題がある。そこで、読書の習慣を確立するとともに、読後の取り組みも検討していきたい。また、授業チェックリストの活用等を通して、国語科の授業改善に努めていく必要がある。
		◎家庭学習習慣化の確立（宿題+自学+準備）【指標】10分×学年+10分以上への到達児童80% 土日学習時間0の児童 25%以下 ＜結果＞ 家庭学習時間目標達成率 1学期：平日54% 土日学習時間10% 2学期：平日65% 土日学習時間15% ・毎学期、家庭学習強化週間の設定を行い、家庭学習について毎日振り返らせ、目標時間の達成に向けて家庭と連携した取組を行った。 ・土日の家庭学習の定着を目指し、週末にカスタを持ち帰り、週末課題の取組を行った。	2.7	・時間だけでなく、質もしっかり担保することを大切にしましょう。 ・興味のあることから始め、それを伸ばすことから自学へつなげればと思う。 ・平日の宿題はがんばってほしいですが、土日は金曜日に終わらせて、思いっきり遊ぶことが大切だと思います。	・家庭学習強化週間の取り組みを学級内に留めず、PTA評議委員で結果をフィードバックしたり、学校総体として称賛活動を取り入れたりするなどしていく必要がある。
	総合所見	・標準学力テストでは、国語科、算数科ともに昨年度より向上した。特に算数科においては、50.4と全国平均を上回ることができた。 ・全国学力・学習状況調査や県学力調査においては、全国平均を大きく下回る結果となり、応用力や活用力に課題が見られた。記述問題に対応できる児童を育成していく必要がある。			
ルールを守り人の気持ちをしっかりと考える子ども	道徳性・人間性	◎重点目標の達成度【指標】児童アンケートにおいて「できている」の回答80%以上 教師アンケートにおいて3.0ポイント以上 ＜結果＞「自分からあいさつができています」児童：89% 教師：2.9P 「ふわふわ言葉を使っている」児童：87% 教師：3.0P 「ルールを守っている」児童：87% 教師：2.9P ・各担任が学級において、あいさつ名人や自分から名人について意識させたり、ルール順守の声かけをしたりした。 ・管理職による毎週の称賛活動（給食時間の放送）で、素敵なおいさつや自分から頑張った姿などを褒めた。 ・気になる事案については、注意喚起の放送をしたり、生徒指導担当や管理職からの指導を行ったりと組織的に対応していった。 ・保健委員会のふわふわ言葉の取り組みや県立大学の原田先生のアサーション学習、人権学習などを通して、自分たちが使っている言葉を振り返り、友達を大事にする言葉を使おうという意識を高めていくことができた。	2.9	・低学年の内は、あいさつが良いが、高学年になり、恥ずかしさがあるのか小さい声になっている。 ・学期を追うごとにあいさつが返ってくるようになった。 ・児童のあいさつはとても良いです。 ・地域の知らない人へのあいさつは、日頃知らない人にはついていけないと教えていることもあり、難しいと感じる。 ・先生方や地域の方に褒められることで、自分の良さがさらに伸びるのだと思いました。6年生から下級生、下級生から上級生を褒める活動も良いかもしれませんね。	・あいさつについては、「なぜ、あいさつをするのか」「どのようなあいさつが良いのか」などを道徳科や学活などの授業を通して考えさせ、日々のあいさつにつなげていきたい。 ・言葉の取り組みについては、今年度の取り組み（言葉の言い換えや日々の振り返り等）を継続して行っていく。 ・ルール順守などの規範意識を醸成するために、道徳の授業を充実させていく。 ・委員会活動などにおいて児童同士の称賛活動も推進していく。
		◎新たな不登校を生まない取組の充実【指標】不登校児童0 教師アンケートにおいて3.0ポイント以上 ＜結果＞ 不登校児童 0人 新たな不登校を生まない取組 教師：3.1P ・朝の未連絡児童や遅刻や欠席児童に対して、担任任せにせず組織的に連絡や家庭訪問などの対応を行った。 ・教育相談を行い、がんばっていることや悩んでいることなどを聞き取り、子供たちの思いを受け止めた。放課後には、聞き取った教員でフィードバックを行い、情報を共有し、今後の指導につなげていった。	3.1	・関係機関との連携や家庭教育力の強化がポイントと思います。 ・不登校児童がいないのが素晴らしいと思いました。 ・先生方の保護者の方々の努力成果で不登校が0だと思います。	・不登校支援委員会において、実態交流に留まらず、ターゲットを絞り具体的な取り組みを検討していく。また、学校だけで対応できる課題と、関係機関につなげる課題のすみ分けを行っていく。
		◎いじめの未然防止・早期発見・早期対応の徹底【指標】いじめ・生活アンケート実施（毎月）による未然防止100% ＜結果＞ いじめ・生活アンケート実施（毎月）100% 年間認知件数（市教委報告）10件 ・アンケートであがった内容については、すぐに聞き取りを行って対応した。また、児童だけでなく、保護者アンケートも実施して、多角的に児童が嫌な思いをしていないか把握していった。	3.2	・いじめに関する情報を幅広く収集できる体制づくりがポイントと考えます。 ・教育相談で先生方とゆっくり話せることが問題の早期発見につながると思います。	・次年度も引き続き、いじめ・生活アンケートや教育相談を通して、いじめの未然防止につなげていく。また、家庭いじめチェックリストやICTを活用したアンケートも活用していく。
総合所見	・あいさつや言葉などについて児童と教師の意識においてズレが出ている。モデルとなる姿を児童と教師で共有し、その実現に向けて取り組みを進めていく必要がある。 ・不登校児童は居ないものの、長期欠席や不登校兆候の児童が増えてきている。保護者へのアプローチも含め、どのように支援していくのか組織的に検討していく必要がある。				
目標を持ち目標に向かう子ども	学びに向かう力等	◎目標に向かって努力し自分から行動できる【指標】児童アンケートにおいて「できている」の回答80%以上 教師アンケートにおいて3.0ポイント以上 ＜結果＞「自分から行動できる」児童：91% 教師：2.6P ・学期初めの目標に加え、自分の行動目標を立てさせ、毎日の振り返りを行った。気になる児童に対しては、担任だけでなく、専科の先生も対応し、目標（めあて）を意識し、行動改善できるように支援していった。	2.6	・家庭の教育力向上が重要と思います。 ・生活リズムを整えることは、現代においてかなり難しいと感じます。家庭の力が必要なので、生活リズムを整える良さを学校や教育委員会等が発信してくれると良いように感じます。	・生活リズムががんばりカードの取り組み結果を、PTA評議委員会やテトルなどを活用し、フィードバックしていく。また、生活リズムを整える良さを、生活リズムの乱れによる問題点を保護者に啓発していく。さらに、市から出される「児童生徒の携帯電話等の利用に関するきまり」に関して、学級懇談会や個人懇談会などで提示し、21時以降の使用を控えるようお願いしていく。
		◎早寝・早起き・朝ごはん・メディア等の推進【指標】達成児童90% ＜結果＞ 達成率 1学期：朝食89% 睡眠72% メディア82% 2学期：朝食91% 睡眠66% メディア77% ・「生活リズムががんばりカード」取組週間の設定を行い、家庭と連携しながら生活リズムやメディアの適正な使用について見直しを図った。毎学期の始業式や終業式で、養護教諭が生活リズム等の大切さについて話をした。			
総合所見	・学校教育目標や重点目標を意識させることで、目標に向かって頑張っていると答えた児童が90%以上もいた。 ・スマホの使用などによる寝る時間が遅くなっている問題が深刻化しているので、PTAの協力や理解を得ながら取り組みを検討していく。				
ふるさとを愛する子ども	家庭・地域との連携	◎地域の「ひと・もの・こと」を活用したふるさと学習の実施【指標】教師アンケート3.0ポイント以上 ＜結果＞ ふるさと学習の実施 教師：2.6P ・年間指導計画に地域との連携を位置付けて地域の「ひと・こと・もの」を活用したり、一般研修を行い、地域学習の計画を見直したりしていった。 ・地域学校協働活動の年間計画を立てたり、サポーター募集を呼びかけたり、地域の人材活用を促進した。	2.8	・良く地域と連携を構築できています。 ・古処山登山は、地域の人の交流もあり、とても良いと思います。 ・地域の協力もあり、郷土愛については素晴らしい取り組みだと思う。 ・牛隈は地域の協力がすごいですね。ここで育つ子どもは、温かく優しくなるように感じます。今後も、積極的に地域の力を活用していただきたいと思っています。	・今年度作成した年間計画をもとに、地域と協働した活動を計画的に実施していくとともに、その活動内容について学校運営協議会で見直し、改善策について協議していく。
		総合所見			